



17 色絵獅子置物 薩摩焼 一点

明治前期(十九世紀)  
陶磁 二七・五×二六・五×三四・五

互いに見交わしながらじゃれ合う三匹の獅子を山型に配して一体とした、複雑な作りの薩摩焼の置物である。その構造の複雑さもさることながら、それぞれの獅子の造形の緻密さは驚くべきもので、作者は実際の動物の体の様子をよく観察したのだろう。獅子は重なり合う上から、茶、白、青と、三匹それぞれ色が分かれており、腹部のみ薄い朱で統一されている。また、体部の斑文様のほか、突起状のたてがみや尾と牙、爪には金彩が用いられている。造形的に類似する獅子置物としては、薩摩焼の系統の一つである豎野系に無地の白薩摩による作例が知られる。捻りものと呼ばれる、このような念入りに細工をほどこした大型置物は、明治前期に海外へ輸出する目的で制作された。だが、本作は明治期特有の精緻な細工をほどこしながらも、刀装具などに見られる三匹獅子の意匠を踏襲していることから、国内向けに作られたものではないかと推測される。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections